

# 平成27年度 決算を認定

平成27年度決算審査特別委員会が平成28年10月20、21日に行われ、一般会計、特別会計、企業会計について審議し、審査の結果認定すべきものとなり、12月6日開催の第4回定例会で認定されました。

(円)

会計名	区分	決算額		差引残高
		歳入	歳出	
一般会計		123億 932万 3,400	121億 6,412万 5,211	1億 4,519万 8,189
特別会計	国保事業	13億 2,513万 6,958	13億 1,908万 9,252	604万 7,706
	下水道事業	6億 7,046万 1,732	6億 7,046万 1,732	0
	介護保険(事業)	9億 332万 3,259	8億 6,972万 8,537	3,359万 4,722
	介護保険(サービス)	5億 322万 717	5億 321万 5,310	5,407
	後期高齢者医療	9,867万 1,746	9,812万 168	55万 1,578
	特別会計小計	35億 81万 4,412	34億 6,061万 4,999	4,019万 9,413
総計(一般+特別)		158億 1,013万 7,812	156億 2,474万 210	1億 8,539万 7,602

## 企業会計・病院

(円)

総収益	総費用	当年度純利益
10億 8,358万 2,705	10億 8,318万 1,139	40万 1,566

## 企業会計・上水道

(円)

収入合計	支出合計	当年度純利益
9,311万 2,598	8,723万 1,674	588万 924

## 総括質疑

平成二十七年  
度  
各会計決算審査特別委員会

### 熊谷 善行 議員

**問** 平成28年第1回定例会で「ふるさと納税への取り組みについて」の質問では、「郷土館の建物の維持補修等まちづくりに必要な事業を提示し募集する」と答弁があったが、ふるさと納税の募集は行っているのか。

**答** 内部で協議をし制度設計等の議論をしているが、それができ次第PR等をしていきたい。

### 櫻井 一隆 議員

**問** 「憩の家かや沼」の27年度決算をどのよう受け止めたのか。また、厳しい経営状況に対し今後どのような対策を考えているか。

**答** 休館の影響が予想以上に大きくかなり厳しい状況下にあった。

今後、調理師等人材確保の見通しが  
出たので進めていきたい。

### 渡邊 定之 議員

**問** 健康づくり運動指導員養成講座が計画されているが、教育大学との連携で行われたように、充実した内容にすべきと考えるがどうか。

**答** 平成29年度の講習を考えている。外部の講師も考えながら過去の講座内容の検討や指導員の意見も参考にしていきたい。

**問** 多和育成牧場の飼料安定確保をどのようにしているか。また、食品残渣飼料試験給与の結果と今後の対応について聞く。

### ※食品残渣とは

国内で生産されたウイスキー製造過程で生まれたコーンの搾りかすやコーヒー粕など乳酸醗酵させたもので腸内フローラのエサとなるものとして入れている。

本多 耕平 議員

**答** 二番草を中心に牧場に融通してもらっている。例年通り粗飼料をほぼ確保ができています。食品残渣の試験給与は粗飼料不足を補うことが目的ではない。世界規模の作況不況に影響されないことが目的だ。

**問** 農業分担金収入未済額について納入させる努力をどのようにしたか。

**答** 電話での督促や催促状などを出したり、また分納などの形で納めてもらっている。

**問** 町民一人ひとりが義務を果たすまちづくりのためにも、住宅使用収入未済額、税の滞納、税外収入未済処理対策、施策をどのように考えているか。

**答** 税については町税収納会議、税外は収納対策委員会等すべきことをし、収納率をあげる努力をしている。

**問** 美幌堆肥舎の償却年数は何年か。いくら年数を伸ばし、最終年数は何年にしたのか。美幌堆肥舎の今後の維持管理をどのように考えているか。

**答** 使用料算定で、償却年数を伸ばしたいということではない。最終年数は平成40年度である。今年の6月で使用をやめた。今後については内部協議をしている。

**問** 交通事故を防ぐために、町道阿歴内3線の案内看板設置など環境整備をすべきと考えるがどうか。



**答** 国道側については、開発建設部へ要請する。町道の車線上の止まれの看板を設置している。周辺の整備もしてきたが地域の要望も聞き検討していく。

**問** 本町の釧路湿原、塘路湖、多和など数少ない資源を大事に維持管理することを望む。特にサルボ展望台、多和の環境整備を早急にすべきではないか。



**答** サルボ展望台については、環境省、道とも協議していく。多和については、町有施設整備基金があるが、今後緊急に対応していきたい。

**問** 町育成牧場の哺育事業、綿羊生産事業の方向性を具体化すべきではないか。

また、歴史的トラクター展示のあり方を検討すべきではないか。

**答** 哺育事業については、関係団体や利用者と話しながら検討していきたい。

トラクターの展示は夏期間は屋外で展示し、冬期は倉庫に収納している。案内板については考えている。綿羊については福祉分野の事業、観光分野として考えてきたが増頭も考えている。



松下 哲也 議員

**問** 地域活性化事業、地域振興事業で取り組まれた移住促進対策について、どのような取り組みがなされたか。移住者と移住希望者との交流活動に取り組んではどうか。

**答** 大阪、名古屋圏において、標茶町PRブースを開設し移住誘致に向け、入り口段階の取り組みをした。

移住希望者との交流については、今後検討したい。

深見 迪 議員

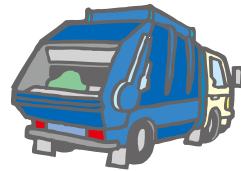
**問** 「広報しべちゃ」が全町民に配布されていない実態がある。全町民に配布すべきではないか。

**答** 全町民に配るべきものと思っ  
ている。何とか全戸配布めざして  
どっしり手法があるのか考えていき  
たい。

**問** ごみの分別収集だが高齢者が増  
えて、様々な要因で分別の仕方

が難しくなってきたという実態がある。課題としてとらえ、対応を考えたことはどうか。

**答** 実態は把握していないが、これ  
からそいつい課題等も多くなっ  
てくると思う。ぜひこれから介護事  
業所などと協議しながら検討してい  
きたい。



**問** 教職員の多忙化について、会議  
を減らすだけでは解消できな  
い。長時間労働について、文科省は  
部活動を含めた待ったなしの思い  
切った改革を示唆しているがどうと  
らえているか。

**答** 会議を減らすといっものは取り組  
みの一部である。  
定数の改善の問題や、少人数（学  
級）の実現等々引き続きやっていき  
たい。

改革は今の段階ではおさえてい  
ないがこれからの課題と認識してい  
る。

意見書

次の5件の意見書が可決され、関係機関に送付されました。

◆意見書第19号

大雨災害に関する意見書

本年の大雨等による甚大な災害に  
対しての復旧復興に要する国の財政  
支援等を求めたものです。

◆意見書第20号

JR北海道への経営支援を求める意  
見書

地域住民の日常生活に重要な移動  
手段である鉄道が公共交通機関とし  
ての役割を果たせるよう、国の財政  
支援を求めたものです。

◆意見書第23号

介護サービスの適切な確保と介護従  
事者の処遇改善を求める意見書

必要な介護サービスを適切に受け  
ることができる制度の維持、介護人  
材の安定的な確保のため、国に処遇  
改善を求めたものです。

◆意見書第24号

緊急防災・減災事業債制度の恒久化  
等を求める意見

近年大規模な自然災害が多発して  
いることから、地方自治体が計画的  
に庁舎等の耐震化等に取り組めるよ  
う地方財政措置を国に求めるもので  
す。

◆意見書第25号

地方議会議員の厚生年金制度への加  
入を求める意見書

国民の幅広い政治参加や、地方議  
会における人材確保の観点から、地  
方議会議員の厚生年金制度加入の法  
整備を国に要望したものです。

次の2件の意見書が提出されましたが、賛成少数で否決されました。

◆意見書第21号

地方財政の充実・強化を求める意見書

2017年度の政府予算、地方財政の検討に当たって、国民生活を犠牲にする財政ではなく社会保険予算の充実、地方財政の確立を政府に求めたものです。

◆意見書第22号

義務教育費国庫負担制度堅持等、子どもの貧困解消など教育予算確保・拡充に向けた意見書

義務教育費無償、義務教育費国庫負担制度の堅持、負担率2分の1への還元など、教育予算の確保・拡充、修学保障の充実を求めたものです。

# 委員会報告

## 厚生文教委員会 所管事務調査報告

○調査日時

平成28年11月28日

○調査場所

標茶町役場議員室  
標茶町立中茶安別小中学校会議室

○調査事項

統廃合により転校した子どもたちの現状について

○調査の経過及び内容

資料に基づき、阿歴内小中学校との統合に向けた中茶安別小中学校の取り組み及び統合後のようすについて学校からの説明を受け、各学年の授業参観をした。その後議員室において、管理課長から平成28年度から34年度までの「年度別児童生徒数の

推移」「年度別新入学児童生徒数見込」について説明を受けた。



中茶安別小中学校の授業風景

○委員会の所見

授業参観ではどの学年も楽しく授業に参加し、統合がスムーズに行われたとみられる。丁寧な板書やタブレット端末を活用するなど工夫された授業も素晴らしかった。統合に際しての保護者、地域の取り組みがそれぞれの地域の努力で取

り組まれていた。

スクールバスの登下校時間が長く、児童生徒の負担も感じられる。

児童数は、推計では6年後の平成34年には80人も減少する。特に標茶小学校の人数は300人から219人に激減する。少子化、人口減によるものだが、標茶町第4期総合計画に掲げた、「・・・産業の発展と雇用の確保、子育て支援などの全町民によるまちづくりを推進し、社会減の抑制と自然増の向上にまちをあげて取り組む・・・」ことの具体化が望まれる。

## 総務経済委員会 所管事務調査報告

総務経済委員会に付託されていた「標茶町簡易水道事業の設置等に関する条例の制定について」は、平成28年11月11日の委員会において「原案可決すべきもの」と報告がありました。